

研究課題名：	妊産褥婦の満足度向上に向けた看護介入～バースプランの導入～
所属（診療科等）：	公立昭和病院（ 看護部 ）
研究責任者（職名）：	杉山 朋子 （ 担当係長 ）
研究代表者（所属）	産婦人科
試料・情報の提供責任者： 試料・情報の管理責任者：	公立昭和病院 院長 坂本 哲也
研究期間：	西暦 2023 年 8 月 8 日～ 西暦 2024 年 2 月 29 日
研究目的と意義：	【背景】 厚生労働省の人口動態統計によると 2022 年の出生数は過去最少と発表されている。公立昭和病院でも分娩件数は年々減少傾向にあり、2022 年の分娩件数は 430 件と 3 年前よりも 130 件も減少している。しかし、近隣の医療機関では年間 1000 件以上の分娩件数を維持している。妊婦が病院を選択する基準として地理的要因、経済的要因、医療設備や医療サービス、施設の評判が考えられ、近医では無痛分娩や食事、アメニティなどのサービスが充実している施設も多い。一方当院は地域周産期医療センターであり、周産期に関わる高度な医療を対象とした施設である。そのため妊娠合併症など妊娠・出産にリスクを伴うハイリスク妊娠においては母胎の救命とそれに伴う医療行為が優先される。公立昭和病院は様々な診療科があり合併症やハイリスク分娩、児の異常時にもすぐに対応出来るというメリットがあるが、その一方で妊産婦の気持ちやニーズに寄り添うことが困難な場合も多い。また過去 3 年間はコロナ禍において立ち会い出産中止や、家族の面会制限により産婦のニーズに寄り添う看護が提供出来なかった。しかし、日本産婦人科医会では高次医療機関においても安全性を充分配慮した上でコミュニケーション（対応、経過説明、意思尊重、安心）、産痛緩和、助産師によるケアや分娩介助、母子同室、母乳育児支援、リスクによっては終始自由姿勢、夫や家族の立ち会い、早期母子接触・授乳などを再考し、満足度を上げることが推奨されている。 公立昭和病院産婦人科病棟の活動としてバースプランを導入し、バースプラン内容の調査、及びその効果について実態を調査したいと考えた。 【目的】 バースプランをもとに妊産褥婦が妊娠期から産後にかけてどのような過ごし方や医療介入を希望しているか把握する。また妊産褥婦の希望に沿った看護介入が実施出来ていたか、それにより満足度が向上していたかを明らかにする。
研究内容：	●対象となる患者さん 公立昭和病院で分娩をする全ての妊産褥婦。 母体搬送などバースプランを聴取出来なかった産婦は除く。 ●利用し、又は提供する試料・情報の項目 研究対象者識別コード、年齢、性別、既往歴、身長、体重、処方薬、薬歴、バイタル（血圧、脈拍）、ハローベビーカルテ ●提供する試料・情報の取得方法 電子カルテより

●試料・情報の利用目的及び利用方法（他機関へ提供する場合は、その方法を含む）
アンケート結果よりバースプランに対する満足度について回答を集計、分析を行う。

●利用する者の範囲（当該研究を実施する全ての共同研究機関の名称及び研究責任者の氏名）
公立昭和病院

問い合わせ先：

【研究担当者】（研究全般に関すること）

氏名：杉山 朋子（看護部）

住所：小平市花小金井 8 丁目 1 番 1 号

電話：042（461） 0052（代表） FAX：042（464） 7912

【ご意見・相談窓口】（研究・診療内容に関するものは除く）

総務課 042（461） 0052 内線 2247

受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）